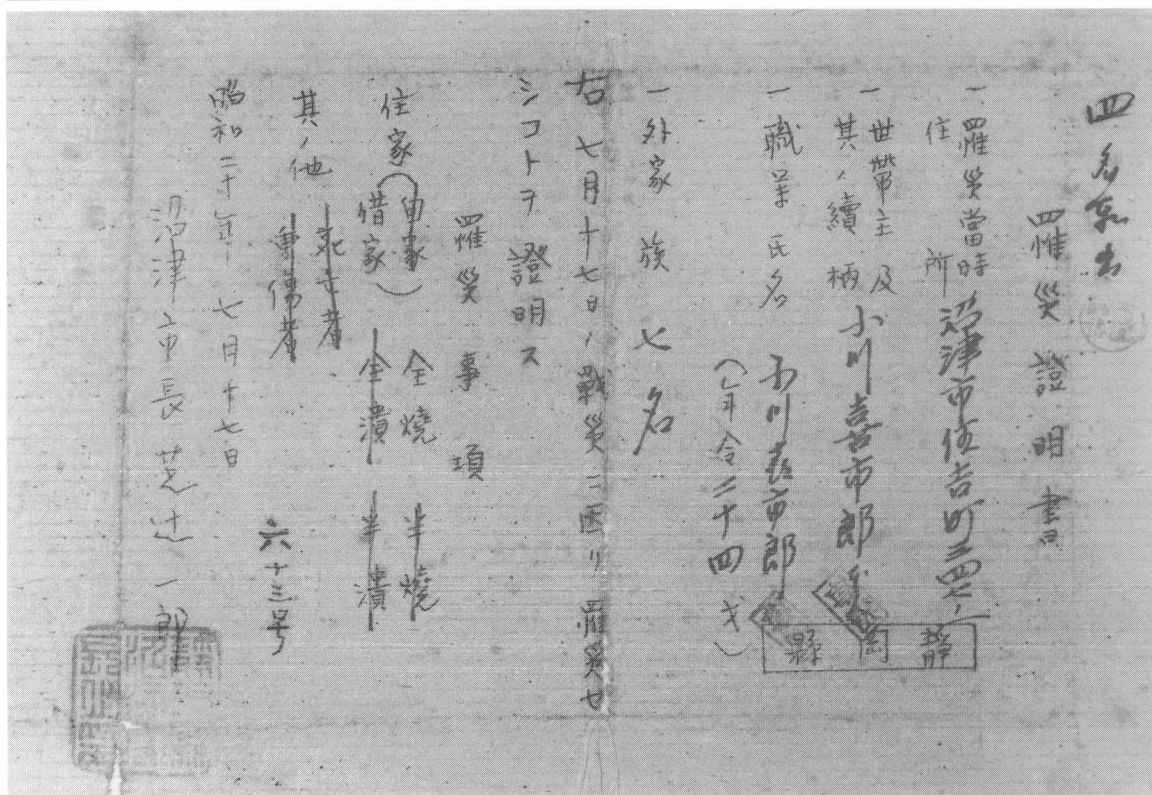


明治史料館通信

1995. 7. 25 (季刊 年4回発行) Vol.11 No. 2 通巻第42号



沼津市長が発行した空襲被害者に対する罹災証明書
(小川喜市郎氏所蔵)

戦災罹災証明書

ぬまづ近代史点描 ②7

阪神大震災では被災者に対して自治体が罹災証明書を発行したことは記憶に新しい。

五十年前、太平洋戦争による空襲被害に際しても罹災証明書が出されている。

上の写真は昭和二十年(一九四五)七月十七日の沼津空襲での被災者に対して沼津市長が発行したものである。戦時下の物資不足や応急のためでもあり、粗末なわら半紙を使用したものだった。中には使用済みの紙の裏面にかり版印刷されたものもある。

この日の空襲では、死亡二七九名、重傷一五四名、軽傷三五一名という人的被害、全焼・全壊一一六〇五、半焼・半壊一九七、破損一六〇という建物被害が出た。混乱の中、罹災証明書の発行・受給は大変な作業だったのではないだろうか。

この証明書が発揮したわずかばかりの効力で罹災者はなにかの便宜を得て、その後の生活の建て直しに取り組んだのであろう。

江原素六とその周辺〈23〉

農夫上原平兵衛と江原素六

地域における近代化の過程において士族が果たした役割とは何だったのだろうか。特に平民層に対してどのような影響を与えたのかは気になるのである。沼津の場合、沼津兵学校という少数エリートが残したブラスの遺産とは別に、膨大な数の地域残留士族の存在を考えなければならぬ。

江原素六はその両者に関わったという点で特異な立場をもった人物である。すなわち、沼津兵学校において近代化の最先端の担い手である官吏・軍人・教師らを育てたばかりでなく、その後は庶民（平民および非エリート）の士族たちとともに地域の中で生きたという

履歴である。

以下に掲載する記事は、江原のごく身近にいた一農民が触発され自分なりに「近代」を模索した姿を示している。

○伊豆箱根富士愛鷹等の深山ブナと云ふ木あり年々之に風栗と称する実を結ぶ事許多なり其実は上等の食料油となり又灯油に用ゆる時は最とも佳品にして其糟は豚又牛を養ふに適当なりといふ説泰西諸農学書に見へたり然るに我近傍の農家はいまた之を拾ふものあらず即ち外々にても同じく右実を拾ふ事を知らざる者もあらん歟といらざる御世話ながら山村村々の御方へ申上度と新聞屋様へ御願ひ申上

私共兼テ駿東郡東熊堂村ニ牧牛所相開キ候處追々蕃殖

コ付今般極上種英亞胤牛（即チ）四才三才ノ者十頭賣捌キ

申度候間御望之方ハ頭數ニ限ラス御來臨之上御求メ被下度候也

駿東郡沼津在西熊堂村 上原平兵衛

上原平兵衛の新聞廣告
『静岡新聞』
明治10. 3. 12

升者は駿東の西熊江原方に備はる、耕夫平兵衛と云報知あり流石は江原公の宅に居らる、故旨い所へ気が付れました（『静岡新聞』明治10・3・2）

○本年ハ苗代時分に季候の充分ならざる由えか所々に稲虫を生せしかバ蔓延の甚しきに至らざる前其撲滅の法もあらんかと去る一日江原氏の宅にて農書の講義あるに付聴問の次手に稲虫の事を啓ひしに同人の言ハる、には殺虫種々の方法あれども第一簡易にして奇功あるものは芥子種の油を一反歩凡二合つ、も灌くに如くものなし必らず違算なかるべし又其絞り粕は石灰木灰と相和すれば夏作諸蔬菜の殺虫に用ひて其功赫々たり故に農家たるものは必ず多少の芥子菜を作り一朝虫害の兆あらば之を絞油し其油を以て虫害を防かんことこそ肝要なれ夫れハ兎もあれ適子か宅へ数升の芥子種取穫せしかハ右を以て本年実地殺虫を試験すべしといわれたり予大に其説に感服せしかバこハ日本古来の農書にあることにて毫も珍奇ものにあらず少しく読書のあるものは誰も知了

しをるならんと曰れたれども我輩の如き無智の貧農も世間全く絶類といふにも非ずされバ新聞の貴紙を汚し同業同等の社会へ報告いたしたくとの老婆心なり然れとも真に記するには之を没書するも敢て遺憾にあらざるなりと駿東郡西熊堂村農上原平兵衛君より報知ありイヤもふ弊社の日報は因より下向の新聞にて決して上等社会の博識大先生の御目にぶら下ける品ならずかよふな事は喜こんで書載升中々没書処では無ひよ（『函石日報』明治12・7・8）

このふたつの新聞記事は、江原素六の農業知識に触れた西熊堂村の農民上原平兵衛が、その内容を新聞社に報知したものである。実際の農業経営において江原のわか仕込みの知識がどれほど有効であったのかは疑問であるが、農夫平兵衛は正直に感激したのであろう、新聞に投書するという行為にまで及ぶのである。

上原平兵衛（平吉とも名乗る）は、明治五年の戸籍では三十四歳であり、組頭をつとめていた。しかし決して豪農ではなかった。

シリーズ
沼津兵学校とその人材

39

漢学者 岡田老峰

沼津兵学校附属小学校の教授に岡田老峰という人物がいた。これまで彼の詳しい経歴が紹介されたことはなかったが、今回子孫の家に残された文書から以下の履歴が判明した。

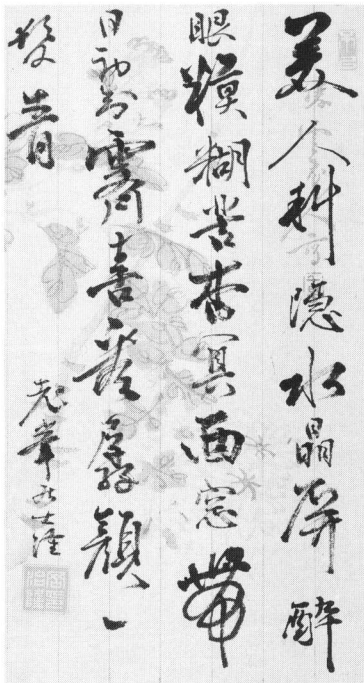
明治二年（一八六九）の『沼津御役人附』には隆三とある。老峰は号である。

天保十年（一八三九）五月に質問所教授方出役新井忠次郎に入門し、天保十二年（一八四一）十二月、十三歳の時から聖堂学問所

岡田家は、老峰の祖父惣七が文化十二年（一八一五）に御持之頭依田伊賀守組同心に召し抱えられて以来の幕臣である。父三右衛門（源五郎・国治）は、御持筒頭小栗又一組同心であり、老峰はその四男だった。

幼名を徳三郎といい、諱は治隆、他に宣輔・隆三なども称した。

昌平覺）に学び、翌年十一月には新井の推挙により「聖堂御二階寄宿並通稽古」を許された。嘉永四年（一八五二）六月、父の跡を継ぎ御持組の同心となり、同七年七月には御書物同心に転じた。嘉永六年（一八五三）には昌平覺学問吟味に乙科で及第しているが、



岡田老峰の書
(間宮恒夫氏寄託)



土戸翼忠
(岡田良一提供)

同期の甲科及第者三名の中には塚本明毅（のち沼津兵学校一等教授）、乙科及第者三十五名の中には伴鉄太郎（のち沼津兵学校一等教授）らがいた（『昌平学科名録』『江戸』第二巻）。元治元年（一八六四）十一月には学問所下番に任命され林大学頭支配となった。さらに同年十二月には学問所教授方出役並兼勤を命じられ、三人扶持を賜っている。

慶応元年（一八六五）八月には日光学頭に任命され、二十人扶持を給され、日光の学問所に赴任した。同三年（一八六七）正月には甲府徴典館学頭に任命され、甲府に赴任した。

以上の履歴は、岡田良一氏所蔵の「明細書・由緒書・親類書其外諸書付」「諸願書向并被 仰付書付控」「北頼備録」「峡中視学記」な

どによった。

維新後は沼津に移住、沼津兵学校附属小学校素読教授方となった。三十八歳という年齢は、漢学系の教授としては山田大夢とともに最年長だったと思われる。

廃藩後も沼津に住んだが、学制頒布後、附属小学校を私立によって維持することには反対し、集舎の設立には関与しなかったという（間宮喜十郎著『沼津小学沿革史』沼津市立駿河図書館）。その後の活動は不明だが、明治十五年（一八八二）五月二十日、五十二歳で没した。

長男土戸翼忠（米太郎）は老峰夫人の実家を継ぎ、岡田家は次男の善建が継いだ。土戸翼忠（一八五五〜一九二四）は、沼津兵学校附属小学校に学び、駿東郡長沢村の勧農塾や沼津中学校（三等助教諭）で教鞭をとったほか、沼津の民権結社観光社のメンバーだったことが知られる。

岡田老峰は漢学という伝統的学問に依拠したが、洋学系の人物と同様、幕末の人材登用策に乗ったひとりであった。

お知らせ欄

◎企画展「昭和の戦争と沼津」の開催について

今年には戦後五十年。今回の企画展では十五年戦争と地域との関わりに焦点をあて、展示を行っています。この機会に戦争の記憶を心に留め、平和の意義を考えていただければ幸いです。

期間…7月1日(土)から9月29

日(金)まで

会場…3階北側・4階展示室

内容…空襲・学童集団疎開・満蒙開拓青少年義勇軍・海軍工廠・海軍技術研究所・拓南



金岡村女子青年団による慰問袋作成

練成所・兵士と銃後など、沼津と戦争をめぐるさまざま。まなテーマで構成。

◎図録『昭和の戦争と沼津』の刊行について

企画展にあわせて図録を刊行しました。沼津の戦争に関する資料を多数盛り込んだものです。

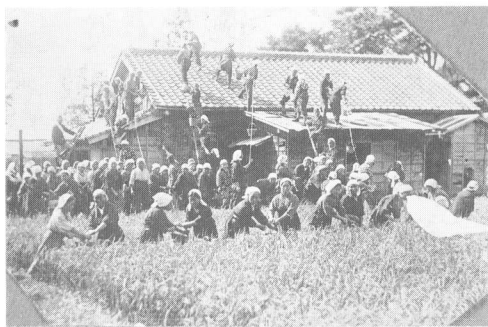
規格…B5判・44ページ(内カラ

12ページ)

頒価…一〇〇〇円

◎歴史講座の受講生募集

企画展に対応したテーマで歴史講座を開催します。日程・講師・内容は表の通りです。申込みと問い合わせは当館まで電話で。



防空演習のバケツリレー

日程	講師	内容
7月23日(日)	静岡県立磐田農業高等学校教諭 小池善之氏	「朝鮮人の『強制連行』—静岡県を中心として—」
7月30日(日)	女性史研究家 平井和子氏	「静岡県の女性と戦争」
8月6日(日)	一橋大学教授 田崎宣義氏	「佐々木古桜絵日記にみる戦時下の沼津」
8月13日(日)	一橋大学教授 中村政則氏	「満州移民と沼津」

時間…午後2時から4時
場所…当館講座室
定員…一〇〇名
受講…無料

◎戦争史跡めぐりの開催

沼津市内に残る昭和の戦争に係した史跡をマイクロバスで見学します。海軍技術研究所跡、同地下工場跡、御成橋空襲被弾跡、海軍特攻部隊基地跡、高射砲隊トーチカ、拓南練成所跡など、十二箇所をまわります。

第一回(成人対象)

日時 7月18日(火)、午前9時から午後4時まで。雨天の場

合は翌日に延期。

定員 二〇名

費用 無料、ただし弁当持参のこと。

第二回(小中学生とその保護者)

日時 8月10日(木)、午前9時から午後4時まで。雨天の場

合は翌日に延期。

定員 一〇組二〇名

費用 無料、ただし弁当持参のこと。

◎ビデオ「愛鷹牧」の制作

館ロビーで自動検索により上映しているビデオ作品に今回「愛鷹牧」が新たに加わりました。

愛鷹牧は、愛鷹山に棲息していた野生の馬を捕らえるために江戸幕府が設置した牧場です。当館の企画展のテーマにも取り上げたことがありましたが、このビデオでより一層理解していただけるものと思います。

沼津市明治史料館通信 第42号

編集 沼津市明治史料館
発行

〒410沼津市西熊堂三七二一
電話 〇五五九一三三三三五
FAX 〇五五九一五三〇一八